

学校保健

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2019-10-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00055816

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



学 校 保 健

野村 菜穂

共同研究者 河田 史宝（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

これまで学校保健では、E S Dの視点に立った保健指導として「コミュニケーションを行う力」と「他者と協力する態度」を重視する能力・態度として研究に取り組んできた。その能力・態度を育むために保健指導の題材は、人間関係を円滑にするコミュニケーションの方法であるストレスマネジメントを学ぶことを通して、他者理解を深め、自己の心の健康を保ちながら健康な生活を送ろうとする力を育むことを目的にしてきた。グローバル化する社会の中で、生徒は今後、異なった考え方や生き方を持った人々と関わり合い、協力し合って生きていくことになる。そのため、自分も相手も大切にする心や自己尊重のコミュニケーションを大切にするアサーションの考え方は、これまでも増して必要とされる。思いやりの心を学習することによって、自分の周囲の多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応える心を育むことが重要であると考えた。

そこで、今までの研究を踏まえ、伝統文化教育を進めるにあたり、「日本人の心に関すること」を重点的に取り組みたいと考えた。日本の精神文化と言われる茶道の「茶の心」を題材として、相手への思いやりの心を育みたい。茶道は一服の茶を飲むまでに、様々な準備を必要とする。例えば、茶室までの露地を整える、茶室では季節に合わせた掛物で床の間を飾る、釜には茶を点てるための湯、懐石料理、茶道具など客を迎えるために心を込めた準備を行うが、このようなことを通して、相手を大切にする心を考える機会としたい。また、古来より、人をもてなす心、思いやりの心が脈々と受け継がれてきた日本の伝統文化を理解し、誇りに思い、世界に発信していける力を育てていきたい。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

学校全体として育成する資質・能力のうち、学校保健では特に「①日本の伝統や文化に関する理解」を重視した。1年時では自己尊重のコミュニケーションを大切にするアサーションやDESCI（デスクリ）法を学習し、思いやりの心についても考えてきた。言語でのコミュニケーションスキルを学習しており、今回は非言語でのコミュニケーションに重点を置き、言葉を発する機会が少ない「茶道」に繋げて、改めて思いやりの心について考えさせたい。また、このような精神を基本とする茶道を通して、日本には昔から相手を思いやることを大切にする伝統文化が続いており、誇りを持って世界に発信していける力を育みたい。

(2) 関連・連携を図った教科等について

コミュニケーション能力はどの教科においても必要な能力である。どのような場面においても、自分の気持ちや考えを伝えとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力を養う実践を行い、他教科とのつながりを図っていきたい。特別な教科の道徳では、主として人との関わりに関することとして「思いやり」との関連が、また、社会科で桃山文化の中で茶の湯や千利休を学び、「茶道」との関連が考えられる。

3. 成果と課題

(1) 保健指導

中学2年生に1時間の保健指導を行った。授業後に生徒に「今後、思いやりの行動をどのように示していきたいと思いますか」と問い、それに対する記述(143名分)を4ステップコーディングによる質的データ分析手法(SCAT: Steps for Coding and Theorization)¹⁾により分析した。表1はそのうちの15名の分析過程を示したものである。記述された文章の内容(テキスト)から「<1>テキスト内の注目すべき語句」「<2>テキスト内の語句の言い換え」「<3>左を説明するようなテキスト外の内容」「<4>テーマ・構成概念」の順にコードを考えて付した。この4ステップコーディングと構成概念からストーリーラインを記述し、理論記述を試みた(表1)。

表1 SCATを適用した保健指導後の感想の分析

記述	テキスト	<1>テキスト中の注目すべき語句	<2>テキスト中の語句の言い換え	<3>左を説明するようなテキスト外の内容	<4>テーマ・構成概念
102	お互い尊重をし合い、思いやりの心を持って接していきたい。言葉のことも、それ以外のことでも一つ一つのことに相手の気持ちを考えられるようにしていきたいと思った。茶道から学んだことを生かしていきたい。	お互い尊重をし合い、思いやりの心を持って接していきたい。言葉、それ以外のこと、相手の気持ちを考えられるようにしていきたい。茶道から学んだことを生かしていきたい	お互いを大切に扱う、思いやりの心を持つ尊敬、言語、非言語、他者理解、茶道の学びを実践する意欲	他者を尊重・理解、実践への意欲、コミュニケーション、茶道を理解	人権尊重、実践への意欲、茶道を認識
121	言葉だけでなく、態度で示すことも重要だと思いました。茶道には相手を敬って平等に接する、昔から続くならわしがある、思いやりの心と結びついていると感じました。私も、相手のことを尊重して思いやりの行動を示していけたらと思います。	態度で示す、言葉、茶道には相手を敬って平等に接する、昔から続くならわし、思いやりの心と結びついている、相手のことを尊重、思いやりの行動を示して	身振りで表現、大事、茶道の精神(尊敬と平等)、伝統、思いやりの心と関連、他者理解、思いやりの行動を実行	非言語的コミュニケーション、茶道の精神を理解、思いやりの心を持った関わりを實踐する意欲	茶道の精神を認識、実践への意欲
128	茶道を通して、道具や人に対しての思いやりと同じように、敬意をもって思いやりの行動を示していきたいと思った。	茶道を通して道具や人に対しての思いやりと同じように、敬意、思いやりの行動を示していきたい	茶道同様すべてに対しての思いやり、敬う気持ち、思いやりの行動を実行	茶道の精神を理解、思いやりの心を持った関わりを實踐する意欲	茶道の精神を認識、実践への意欲
240	思いやりの心について考えてみて、思いやりの表現の仕方はたくさんあるんだ、と知りました。相手と話すときに、ただ声をかけるだけではなくうなずいたり、笑顔で話したり、態度にも心がけていきたいと思いました。茶道のような礼儀もしっかり身につけていきたいです。	思いやりの心について考え、表現の仕方、たくさんある、話すとき、うなずいたり、笑顔、態度、心がけて、茶道のような礼儀、身につけて	思いやりの心を思考、表現方法、多数、存在、会話時、相づち、笑顔、姿勢、心に響かせる、茶道の作法、体構	思いやりの心を理解して実践する意欲、茶道を理解	思いやりの心を認識、実践への意欲、茶道を認識
310	今回、思いやりについて学んで、これからコミュニケーションをとる時には、相手が話すことに対して反応をすることを大切にしたいなと思いました。また、茶道にも思いやりがあるということを知れた。また、思いやりは色々な所にあると分かった。	コミュニケーションをとる時、反応、大切、茶道にも思いやりがある、色々な所、ある	会話時、手応え、大事、茶道の精神、様々な場所、存在	思いやりのあるコミュニケーションを理解、茶道を理解	思いやりのあるコミュニケーションを認識、茶道を認識
330	ジェスチャーとアイコンタクトは常に意識しようと思った。A君の意見の「相手の意見を否定しない」というのは良い友人関係を築くために大事なことだと思う。そして、もし機会があるのなら茶道を体験して、実際に思いやりの心とは何かを考えてみたい。	ジェスチャー、アイコンタクト、常に、意識、良い友人関係、築く、大事、茶道を体験し思いやりの心とは何かを考えてみたい	身振りで手振る、視線を交わす、常に、心に向ける、良好な友達関係、つくる、大切、茶道の精神を思考	非言語的コミュニケーションを理解、茶道の精神に興味	非言語的コミュニケーションを認識、伝統文化に興味関心
423	私は、今茶道を習っている、そこで学んでいる礼儀やおもてなしの心などといった、相手を思いやる気持ちを茶道で示し、そこから普段の生活でも思いやりの気持ちを大切にしていけたらいいな、と思いました。	茶道を習っている、礼儀、おもてなしの心、相手を思いやる気持ち、示し、普段の生活、大切	茶道を学習、作法、茶道の精神、提示、日常生活、大事	茶道を理解、茶道の精神を日常生活と関連	茶道を認識、茶道の精神を生活の中で活かそうとする意欲
214	相手の意見を尊重することや、相手にジェスチャーなどをつけて、話していく必要がある。また話しやすい環境を作って気持ちの良いコミュニケーションをとってみたいです。	意見、尊重、ジェスチャーをつけて話す、必要、話しやすい環境、気持ちの良いコミュニケーション	見解、大切に扱う、非言語的コミュニケーション、なくてはならないもの、会話しやすい場の雰囲気、アサーション	思いやりを持った関わりを實踐する意欲	コミュニケーション技術向上への意欲
329	積極的に自分から行動し、感謝等を表していきたいと思った。きっと言葉でいうより行動で表す方が本音の感謝が伝わるのかな?と思った。ふだん、思いやりというものを意識して行動にうつすことはないので、少しずつ意識していき自然に行動にうつせたらいいと思う。	積極的に、自分から行動、感謝、表して、ふだん、思いやりを心に意識して、自然、行動にうつせたらいい	進んで、自ら動く、有難さ、表現、日常、思いやりを心に意識して、ひとりでは、行動に反映	非言語的コミュニケーションを理解、思いやりの心を持った関わりを實踐する意欲	非言語的コミュニケーションを認識、実践への意欲
228	周りをみて行動し、困っている人がいたら助けて力になってあげる。言葉づかいなどを気を付けるようにする。落ちていたゴミを拾う。すみずみまで掃除をする。	周りをみて行動、困っている人、助けて力になる、言葉づかい、気を付けるようにする、落ちていたゴミを拾う、すみずみまで掃除をする	周囲に気を配る、困難者、支援、話す言葉、注意、奉仕の行動、環境整備	思いやりを持った関わりを實踐する意欲、公共の場での行動を提示	思いやりの行動を社会の中で活かそうとする意欲
327	相手の気持ちを考えながらコミュニケーションをとる。困っている人をみて、自分にできることがあればする。人のために自分から積極的に動く。	相手の気持ち、考え、コミュニケーション、自分にできること、する、人のために、積極的に、動く	相手の心情、思考、会話、可能なこと、実行、奉仕、進んで、活動	思いやりを持った関わりを實踐する意欲	思いやりの行動を生活の中で活かそうとする意欲
408	相手がどういったらうれしいと思うかをよく考えて実行。ごみをみつけたらひろう。	相手がどういったらうれしいと思うか、考え、実行、ごみをみつけたらひろう	奉仕の心、思考、行動、奉仕の行動、環境整備	思いやりを持った関わりを實踐する意欲、公共の場での行動を提示	思いやりの行動を社会の中で活かそうとする意欲
412	人がやっていないところ、細かいところに気づいてやる。ルールを守る	いやなところ、気づく、ルールを守る	嫌悪感情、見つける、規律精神	公共の場での行動を提示	思いやりの行動を社会の中で活かそうとする意欲
424	人が見ているから、先生におこられるから、っていうのをやめようと思う。誰にも見られないような、気が付かないようなところでずっと掃除をしたり、机をそろえたりしたいな、と思いました。そして聞き上手になろうと思います。相手の話をしっかり聞いて、理解し、あいづちを打ったり、表情などにも表せて行けたらなあと思いました。頑張ります。	誰にも見られないような、気が付かないようなところ、掃除をしたり机をそろえたりしたい、話をしっかり聞いて、理解、あいづちを打ったり表情などにも表せて、頑張ります	見られていない環境、奉仕の行動、継続、了承、非言語的コミュニケーション、実践意欲	公共の場での行動を提示、非言語的コミュニケーションを理解し実践する意欲	思いやりの行動を社会の中で活かそうとする意欲、実践への意欲
430	相手と話している中で相づちを打ったり、笑顔で話すのも大切にしたいけれど、人の見えなところでも思いやりの心を持って行動したい。床に落ちていたゴミを拾ってなど、今からできるような簡単なことでも、思いやりの心を大切にしていこうと思う。	人の見えなところ、思いやりの心を持って行動、床に落ちていたゴミを拾ってなど、今からできるような簡単なことでも、思いやりの心を大切に、やっていこう	見られていない環境、思いやり行動、奉仕の行動、単純、思いやりの心大事、実践	公共の場での行動を提示	思いやりの行動を社会の中で活かそうとする意欲

ストーリーライン	(コミュニケーションでの思いやりの心を認識) コミュニケーションには発する言葉以外に、<u>非言語的コミュニケーション</u>も影響することに気づくことができていた。相手の話をしっかりと聞いていることを態度で表すことが大切として<u>非言語的コミュニケーションを認識</u>していた。非言語的コミュニケーションを活用することによってお互いが楽しいと思える会話をする<u>実践への意欲</u>、話しやすい環境を作って気持ちの良いコミュニケーションをとる<u>コミュニケーション技術向上への意欲</u>を持っていた。また、相手の話を最後まで聞く、礼儀を大切にしたい、相手の気持ちを考えて話をする<u>思いやりのあるコミュニケーションを認識</u>していた。敬意を持って接する、平等に接する、相手を認める、感謝する、尊重する、親しい中にも礼儀を持って対応するなど、他者を理解し、相手の<u>人権を尊重</u>することがコミュニケーションを行う時にも大切であると認識していた。さらに、相手のことを考えた対応を認識することにより、周囲の状況を把握して自分から積極的に動く<u>思いやりの行動を社会の中で活かそうとする意識</u>を持っていた。 (茶道と思いやりの心の関係を認識) 昔から続いている茶道の精神から、相手を敬い平等に接することや相手を思いやる心が茶道の本質としてあることとして<u>茶道の精神を認識</u>していた。思いやりの心が茶道のお点前や準備という形に残されており、その心を持てることが日本人として誇りに思うと<u>思いやりの心を認識</u>し、茶道の精神と思いやりの心の共通点を認識することで茶道という<u>伝統文化に興味関心</u>を持っていた。さらに、茶道の道具やお点前を平等に行うことを通して、敬意を持って平等に思いやりの行動を示していきたいと<u>茶道の精神を生活の中で活かそうとする意識</u>を持っていた。
理論記述	・良好なコミュニケーションには、言語以外の非言語的コミュニケーションが影響している。 ・非言語的コミュニケーションを認識することは、コミュニケーション技術向上の意欲につながる。 ・コミュニケーション技術を学ぶことで、相手を思いやる心の大切さや人権を尊重し、思いやりの心を行動として生活や社会の中で活かそうとする意欲を育てている。 ・茶道の精神を学習することは、思いやりの心と茶道との関係を認識することにつながる。 ・茶道の精神を学習することは、茶道という日本文化に誇りを持ち、日々の生活の中で思いやりの心を持って行動する意欲を持つことにつながる。

(下線部は、〈4〉テーマ・構成概念から抽出した語句)

(2) 質問紙調査

質問紙調査は、1時間の保健指導の事前・事後で実施した。質問項目は、内田・北山²⁾の思いやり尺度を使用した。それぞれの項目に対して、「全くあてはまらない(1点)」から「非常によくあてはまる(5点)」の5件法で回答を求め、それぞれ1～5点と得点化した。分析方法は、因子分析(最尤法、プロマックス回転)を実施し、固有値1以上を基準とし、先行研究にならい、因子数を4に設定し分析した。因子負荷は、0.4以上を採択し、0.4未満の項目および、複数の項目に高い負荷を示す

項目を削除したところ、事前と事後で因子構造が異なった。事前のみにみられた項目は、「頑張っている人を見ると応援したくなるほうだ」、「バスや電車でお年寄りや障害のある方が立っていたら席を譲ってあげないと可哀想だと感じる」、「仲間に入れない人がいてもそれはその人の責任だと思う」、「一人一人の主張がぶつかることによって傷つく人がいても仕方がないと思う」「弱い立場にある人も自分で何とかするべきだ」であった(表2)。事後のみにみられた項目は、「試合で自分が勝つためならば相手が怪我をしていても容赦しない」、「人のつらい話を聞いても心からは同情できない」であった(表3)。因子ごとの内容から事前は、第1因子「親切心」、第2因子「同情心」、第3因子「涙もろさ」、第4因子「冷酷さ」とした(表2)。事後では、第1因子「親切心」、第2因子「同情心」、第3因子「冷酷さ」、第4因子「涙もろさ」とした(表3)。 α 係数は、0.8から0.6であったが、事後調査における第4因子のみ数値は低い値であった。

表2 事前の思いやり尺度の因子構造

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第1因子「親切心」				
人に対しては常に親切でいようと思う	0.731	-0.227	0.077	-0.032
自転車が将棋倒しになっているのをみたら、起こしてあげたいと思う	0.721	0.111	-0.155	0.131
ニュースで事故などの報道に接すると心が痛んでしまう	0.574	0.338	0.055	0.125
人を思いやることが何よりも大切だと思う	0.504	0.116	-0.037	-0.015
▲バスや電車でお年寄りや所外のある方が立っていたら席を譲ってあげないとかわいそうだと感じる	0.474	0.136	0.025	0.003
一生懸命やっても失敗すれば意味はないと思う	-0.412	0.024	0.018	0.274
自分が物事が順調な場合、そうでない友人のことを思うと申し訳なく感じる	0.401	0.169	-0.053	-0.128
第2因子「同情心」				
▲頑張っている人を見ると応援したくなる方だ	-0.030	0.956	-0.230	-0.218
もらい泣きしやすい方だ	-0.069	0.580	0.302	0.082
つらい思いをしている人のために祈るような気持ちになることがある	0.308	0.492	0.001	0.023
泣いている子供をみたらつい優しく声をかけたくなる	0.051	0.407	0.071	0.103
苦勞話を聞くと心を打たれる	0.293	0.404	0.107	0.019
第3因子「涙もろさ」				
映画やテレビドラマをみてよくなく	-0.024	0.262	0.687	0.106
いわゆる”お涙ちょうだいもの”の映画は好きではない	-0.019	0.092	-0.635	0.074
自分は涙もろいほうだとは思わない	0.044	-0.072	-0.499	0.142
情にほだされたくない	0.056	0.080	-0.363	0.256
第4因子「冷酷さ」				
▲一人一人の主張がぶつかることによって傷つく人がいても仕方がないと思う	0.274	-0.258	-0.057	0.596
▲仲間に入れない人がいてもそれはその人の責任だと思う	-0.244	0.099	0.013	0.544
▲弱い立場にある人も自分で何とかするべきだ	-0.129	0.183	-0.166	0.520
人が失敗した場合その人に責任があるので同情の必要はない	-0.293	-0.101	-0.135	0.357
α 係数	0.785	0.77	0.624	0.643
因子相関				
因子	1	2	3	4
1	1.000	0.532	0.340	-0.327
2		1.000	0.418	-0.035
3			1.000	-0.031
4				1.000

因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

▲事前のみ

表3 事後の思いやり尺度の因子構造

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
第1因子「親切心」				
自転車が将棋倒しになっているのをみたら、起こしてあげたいと思う	0.745	-0.062	0.038	0.137
人に対しては常に親切でいようと思う	0.707	-0.077	-0.037	-0.093
ニュースで事故などの報道に接すると心が痛んでしまう	0.673	0.078	-0.076	-0.017
つらい思いをしている人のために祈るような気持ちになることがある	0.605	0.024	0.024	-0.294
人を思いやることが何よりも大切だと思う	0.541	0.014	-0.125	-0.084
自分が物事が順調な場合、そうでない友人のことを思うと申し訳なく感じる	0.467	0.368	-0.003	0.278
第2因子「同情心」				
映画やテレビドラマをみてよくなく	-0.122	0.988	0.079	-0.006
もらい泣きしやすい方だ	0.117	0.726	0.133	-0.004
泣いている子供をみたらつい優しく声をかけたくなる	0.118	0.450	-0.063	0.037
自分は涙もろいほうだとは思わない	0.044	-0.425	0.146	0.007
苦労話を聞くと心を打たれる	0.351	0.351	-0.043	-0.021
第3因子「冷酷さ」				
■試合で自分が勝つためならば相手がケガをしても容赦しない	0.059	-0.004	0.837	-0.446
一生懸命やっても失敗すれば意味はないと思う	-0.019	0.006	0.677	-0.072
人が失敗した場合その人に責任があるので同情の必要はない	-0.150	0.115	0.620	0.136
■人のつらい話を聞いても心からは同情できない	-0.207	-0.017	0.548	0.236
第4因子「涙もろさ」				
情にほだされたくない	-0.096	0.057	-0.121	0.453
いわゆる”お涙ちょうだいもの”の映画は好きではない	0.280	-0.311	0.322	0.373
α 係数	0.832	0.761	0.766	0.252
因子相関				
因子	1	2	3	4
1	1.000	0.512	-0.533	-0.157
2		1.000	-0.417	-0.195
3			1.000	0.315
4				1.000

因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

■事後のみ

全ての項目に回答した 135 名を対象に、授業前と授業後の因子得点の比較を対応のある t 検定により比較した (表 4)。得点が 5 点に近いほど思いやり傾向が強く、1 点に近いほど思いやり傾向が弱いことを示す。いずれの因子も平均得点は、事前に比べて事後の方が低く、親切心因子では有意差が 0.066 とややその傾向を見せたが、明らかな有意な差は認められなかった。

表4 授業前後の因子得点の比較

	度数	平均値	標準偏差	t 値	自由度	有意確率 (両側)
親切心因子	授業前	135	3.65	1.437	134	0.153
	授業後	135	3.59			
同情心因子	授業前	135	3.35	1.083	134	0.281
	授業後	135	3.31			
涙もろさ因子	授業前	135	2.83	0.655	134	0.514
	授業後	135	2.80			
冷酷さ因子	授業前	135	3.11	0.927	134	0.356
	授業後	135	3.07			

<考察>

生徒の中には、園児の時にお点前を体験している生徒もいた。さらに金沢の文化として茶道をたしなんでいる生徒や家庭にその環境がある生徒もいた。そのような中で生徒は、茶道はお茶を飲むことと漠然と認識していたが、この授業を受け、思いやりの心が随所に施されている茶道の精神を認識し、日本人の心を認識し、さらにその心が昔から文化として継承されていることを誇りに思う気持ちにつながっていた。茶道の精神には、眼に見えるもの以外に、客を迎える準備や茶室の設えなどの行為、茶室の中では何人も平等にお茶をたしなむ等の人権尊重も含まれると考えていた。その中でも、コミュニケーションには、非言語的コミュニケーションが影響することとらえており、日頃の自己のコミュニケーション能力と照らし合わせ、改善の方法を考えていた。

これらのことから、授業後の自由記述からは、日本の文化である茶道を教材とした授業を通して「コミュニケーションを行う力」を養う可能性もみられた。また、中学1年から2年は思いやりの心を高める時期とも言われており、指導時期としては適している。しかし、茶道の精神としての思いやりの心を捉える機会が少なかったように思う。今後は、実際に茶室でお点前を経験することにより茶室の雰囲気や空間を肌で感じて非言語的コミュニケーションを考える機会を設けることや茶道の全体の中でどの部分を教材として活用して考えさせるかなどを含めて、授業改善をしていく必要がある。

授業前後の「思いやり尺度」因子得点は、いずれも3点である「どちらともいえない」よりも高く、「まあまあ当てはまる」に近い得点であった。そのため、調査対象の集団が「思いやり」に対して「まあまあある」集団であることも考えられ、授業前後による差がみられなかったとも考えられる。また、思いやり尺度は大学生を調査対象として作成された質問紙であることを考えると、中学生にあった質問項目に修正し活用する必要があったとも考えられる。

研究発表会においては参観者にたくさんのご意見ご質問をいただいた。これらの内容を踏まえて今後も改善していきたい。

謝辞

調査用紙の入力、分析に際しては、金沢大学養護教諭特別別科の保健室ボランティア水野谷明香さん、川淵咲輝さんに協力いただいた。ここに感謝いたします。

参考文献

- 1) 大谷尚 「4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案」
名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学） 2007
- 2) 内田由紀子、北山忍 「思いやり尺度の作成と妥当性の検討」
275 頁～282 頁 心理学研究 Vol.72 No.4 2001
- 3) 鈴木薫、浅田知恵、五十嵐利恵 他 「『自然災害』に遭遇した子どもへの養護教諭の対応」
57 頁～70 頁 日本健康相談活動学会誌 Vol.9 No.1 2014
- 4) 石原俊一 「対人ストレスユーモアコーピングにおける心理学的健康への効果」
『人間科学研究』文教大学人間科学部 第36号 2014

授業者 野村 菜穂		授業日 11月16日（金），20日（火），23日（金）
授業クラス	2 年 1 ～ 4 組	関係・連携の考えられる教科等 社会・道徳
授業内容 ・ 普段の生活の中でのコミュニケーションを振り返り，思いやりの心について気づく。 ・ 日本の伝統文化（茶道）の中には，人をもてなす心，思いやりの心が脈々と受け継がれてきたことを知る。		
教科等で身に付けたい力（本時について） 自己のコミュニケーションについて振り返り，思いやりのある態度について判断することができる。 【思考・判断】		育成したい資質・能力 ①日本の伝統や文化に関する理解
授業のポイント・流れ 1 昨年度の授業の学習内容を確認する。（5分） ・ アサーション(assertion)，「DESCL（デスクル）法」 2 最近，コミュニケーションを行う中で相手から受けてうれしかった態度（言語以外）について話し合う。（12分） ・ 相手から受けてうれしかった態度（言語以外）には，どのような心があるのか気付かせる。 3 学級担任が学級経営を行うにあたって心掛けていることなど，思いやりを態度で表していることを紹介する。（3分） 4 GTが茶道について話をする。（10分） ・ 茶道の精神，心の文化を伝える。 5 班で話し合った内容を交流する。（15分） ・ 茶道にはどのような思いやりの心があるのか気付かせる。 6 今日の授業を振り返る。（5分） ・ 今後，思いやりの行動をどのように示していけばよいか考えさせる。		